

令和3(2021)年度 高II SS科学探究I(課題研究) 自己評価表①
 【実践ルーブリック】 2021年11月実施

()組()番 ()班 氏名()
 指導教員()先生)

実験開始前の計画段階から2学期の実験、その結果を分析する段階においての各自の行動について評価しなさい

評価項目/PDCAサイクル	確認項目	評価の内容	評価内容(完全一致である必要はありません)					評価	
			5	4	3	2	1		
P 実験の前に	① 研究テーマ決定における議論	班内の議論に積極的に参加している	研究内容について、班内で議論が活発に行われたか、また、議論に参加できたか	積極的に自らの意見を述べ、他のメンバーを議論に巻き込むことができた	積極的に自らの意見を述べることはできた	自らの意見を述べることはできたが、積極性については反省するところがある	うなずく等傾聴する姿勢は見せたが、積極的に意見を述べることができなかった	議論にまったく参加しなかった	
	② 仮説の設定	何を研究するかを明らかにしている	立証すべき課題が明確にされているか	立証すべき課題が明確であり、班内で共有されており、他班メンバーや下級生たちにもわかりやすく説明することができる	立証すべき課題が明確であり、班内で共有されている	立証すべき課題に不明な点があるが、どのような実験をするべきかは理解している	立証すべき課題に不明な点があり、どのような実験をするのかも理解していない	何を明らかにするか明確にできず、説明を求められてもまったく説明できない	
	③ 情報収集	研究テーマに関係する情報収集を行っている	先行研究や類似の研究がないかを確認しているか	先行事例の研究はもとより、先進的な研究をされている先生の講義(SS出前講義等も含む)や著書などにも当たり、実験計画に反映した	同様の研究がないか、論文検索やインターネット等で調べ、実験手法等を参考に実験を計画した	自分なりに情報収集はしたものの、指導教員に不足を指摘されたが、その後、収集すべき情報を集め、実験計画に反映した	自分なりに情報収集はしたものの、指導教員に不足を指摘されて、そのままにしている	まったく情報収集を行わなかった	
	④ 先の見通し	最終論文提出までの実験計画を明確に立てられている	来年度7月までの計画が立てられているか	来年度7月までに十分に論文を仕上げられる実験計画を立てられており、追加実験も可能なほどの余裕がある	来年度7月までに論文を仕上げられる実験計画を立てることができている	実験計画の不備を指導教員に指摘され、修正を行い、現在では来年度7月に間に合う実験計画となっている	実験計画の不備を指導教員に指摘されたが、まだ修正しきれていない	明確な実験計画を立てずに実験に移行しようと思っている	
	⑤ 役割分担	研究班における自らの役割が把握している	研究班において自らの役割を果たしているか	自らの役割を遂行し、他の班員の役割のメンバーにも回ることもできた	自らの役割について十分に把握し、研究をすることができた	自らの役割を果たせたが、研究の遂行にも少し寄与できなかったと反省する点もある	自らの役割を果たせたと思うが、他の班員から注意を受けることがあった	自らの役割を把握せず、班の研究の遂行にまったく寄与することができなかった	
D 実験	⑥ 実験手法	実験方法について吟味している	先行研究などをともに、どのような実験をするか考えられているか	必要な試薬や機材、器具等をもれなく挙げることができており、事前の実験ノートの不備なく作成しておくなど、準備にも余念がなかった	必要な試薬や機材、器具等をもれなく挙げることができており、実験手法にも問題はなかった	必要な試薬や機材、器具等を挙げたつもりであったが、実際に実験を行っているとき不足しているもの(技術や知識を含む)がいくつかあった	必要な試薬や機材、器具等を挙げたつもりだったが、実際に実験を行うと不足物(技術や知識を含む)があり、実験を中断せざるを得なかった	実験手法について吟味ができておらず、行き当たりばったりの実験となってしまう	
	⑦ 実験結果	実験結果を正しく得ることができ、考察に必要な情報が得られている	予定していた実験から結果が得られたか※成功したか失敗したかではない。「得られたもの」があればよい。	結果を丁寧に記録することができ、情報も十分に得られ、実験の考察をする上での材料がすべて揃った	結果を丁寧に記録することができ、情報も十分に得られた	結果の記録が不十分であり、実験のやり直しが必要となった	結果の記録が不十分であり、実験のやり直しが必要となったが、まだ着手できていない	実験に着手できておらず、十分な結果が得られていない	
	⑧ 指導教員との連絡	指導教員と連絡をとっている	指導教員との連絡・相談をこまめにとっているか	実験や班内での議論の内容はすべて指導教員に報告しているor指導教員ができるだけ立ち会ってくださっている	実験の後は、指導教員に研究経過を報告・相談している	実験2回に1回程度は指導教員に研究の経過を報告・相談している	実験何回かに1回程度は指導教員に研究の経過を報告・相談している	指導教員との連絡をまったくとっていない	
C ふりかえり	⑨ 実験結果からの考察	得られた結果に対して考察が行えている	結果に対して科学的に正しい考察ができているか※実験が成功したか失敗したかではない。	実験結果を丁寧に分析し、次なる課題(修正すべき点や新たな仮説・疑問点)を見つけていくことができた	実験結果の分析を行って、修正すべき点を洗い出すことができた	実験結果の分析を行った現状で満足しており、これ以上実験を重ねる必要がないと判断した	実験結果の分析が甘く、指導教員に不備を指摘されることがあった	実験結果を分析していないor実験結果が得られる段階に達していない	
	⑩ 新しい課題の立案	考察を踏まえた次のステップに進んでいる	考察を踏まえた議論が班内で行えているか	考察を踏まえ、前提としていた仮説をさらに上回る新しい課題ができ、班員や指導教員・周囲の意見も取り入れて次の実験を計画している	考察を踏まえ、前提としていた仮説をさらに上回る新しい課題ができたので、次の実験を計画している	考察を踏まえ、前提としていた仮説をさらに上回る新しい課題ができたが、次の実験計画はまだ立てられていない	考察を踏まえた議論を行ったが、班内で議論がまとまらず、現在に至っていない	考察段階において、班内での議論が行われなかったor議論に参加しなかった	

評価合計